

114
A4402



ボアノチード氏講述第四回 九年一月廿二日

即チ物ヲ生スルヲ又生財ノ道 前回ノ續キ

前回ニ於テプロダクションノ事ヲ云フニテハ今又逐次講述スル所

左ノ如シ○凡ソ人ハ一物タリトモ之ヲ生スルヲ能ハス又之ヲ消滅スルヲ

能ハス併シ唯其形ヲ變シテ其用ニ供スルモノナリ 謂フドモ蓋シ閑濶以

来一モ新ラシキ物ヲ生シタルヲ無ク又之ヲ亡失シタルヲモ無シ唯其形ノ變

シタルヲ見タルノミナルハ充分相違無クベシ予前回ニ於テ凡ソ人ハ所謂「價直」

即チ價直」ヲ生スルヲ得ルト云フヲ説キ言ヘル有リ云ク凡ソ水ノ河身

ニ流ルモノハ全ク價直有ル無シト雖モ若シ人ノ取扱ニ因リ之ヲ引分クル所

ハ即チ之ヲ運致シテ道路ニ滌カヌハ此水ハ忽チ變シテ價直有ルモノトナルベシ

水道會社ノ使用ニ供スルノ類ト此道理ハ天然ノ諸物中一トシテ適當セザルハ無シ凡ソ人ハ是等諸物ヲ通

用スルナリ其之ヲ適用ト云フハ自個ノ用ニ供スル為メニ夫レク之ヲ製造スル

ノ謂ニシテ此際忽チ價直有ルモノトナルナリ諸人ノ了知スル如ク人其ゴシモテ

是ニ因リテ舍察術ノ
經驗上ニ就テ之ヲ言フ
則チ天地間ノ萬物一
トシテ此理ニ依ルモ
ハク無シ

大正十一年四月
隈侯壽幸齋



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

即チ天地萬物ヲ指ス

チ一即チ有用商品ヲ相互ニ交換スルハ是レ即チ其人其用ニ供センガ為
ニ斯ク從事スル所タルハ自カラ明了ニシテ(經濟上ニ於テ)是ヲ「クリエーショ
ン」オラ、ウアリ一即チ價直ヲ生スルト謂フ又人其物ヲ用ユルニ付キ之ヲ亡
失シ又ハ消滅スルハ是レ之ヲ其價直ヲ消盡スルト謂フ抑ク人能ク物ヲ
生スルニ非ス唯其價直ヲ生スルト云フハ世界各國ノ間然セザル所ナリ茲ニ「ウエ
ノルス」即チ富ヲ生スルニ就キ其助ケヲ為スモノ三ノ種類アリ「チエー」即
チ造化「ローバー」即チ力役及ヒ「カピタル」即チ資本是レナリ此三個ノ「プリ
ンシ」アル(即チ原理ハ固ヨリ之ヲ存シ又茲ニ此前三說明シタル)種々ノ學派又ハ
學者ヨリ此原理ヲ提出セン即チ古代ノ佛學家(即チ造化ノ功用ヲ主張シタル
學派)若キヲ土地ニ歸スルノ學者(若キ英人「アダムスミス」氏(即チ力役ヲ主張
スルノ學者)及ヒ伊太利亞ノ學者(即チ資本ヲ主張スルモノ)是レ「昔今佛
國」ヲ主トシ先ツ土地ノ事ヲ説クモノハ敢テ父母ノ國ヲ以テノ故ニ之レニ私スル
ニ非ス畢竟土地ハ最大肝要ナル物素ノ一ナレバナリ○夫レ人ハ一物タリトモ

之ヲ生スルト有ル無キガ故ニ其物ハ唯其從事セル土地ヨリ生スル所タルニ過キ
ガルノ三所謂資本ハ又固ヨリ肝要ナルモノト謂ツベシ末タ之ヲ充分チツシエノ
レ一即チ必要品ト謂フ可カラ(按スルニ茲ニ説ク所ノ資本ハ貨幣ト云フテ之
ヲ言フナルベシ)蓋シ今茲ニ再ヒ前段諸説ノ一致結合シテ偏廢スベカラザル所以
ヲ證明スルニ足レリ而シテ予今其事實ノ顛末若諸説ノ相岐セザル所以ヲ
標記センノ三夫レ經濟學術ヲ一般ニ尊崇スルノ事ハ今日ニ至リ其
効績ヲ見ル如此シ何ノ幸カ夫レ之レニ如カンヤ予嚮キニ言ヘル有リ云ク若シ土
地莫クシバ「プロダクション」(即チ物ヲ生スル)無カルベシト請フ此一室中ノ諸物ヲ
見ヨ一トシテ土地ヨリ生スルモノニ非ザルハ無シ彼ノ壁ハ木材ト「プラスチック」^{被國ノ}
ヨリ成立チタルモノニシテ此二者何レモ地ヨリ出デ其一個ハ地ノ外部今一個ハ
其内部ヨリセリ「琉璃窓」ハ又同シク地上ノ産出ナル砂ヲ以テ之ヲ製作シタル
ニ非スヤ「暖爐」ハ固ヨリ鐵ト石炭トヲ以テ之ヲ造出シ是レ此二物又同シク地
ノ産出セル所ニ係レリ而シテ机上并床上ノ敷氈モ亦同シク地上ノ産物タルニ過キ

大 歳 留

ス何者は等ノ物都テ羊毛ヲ以テ之ヲ製シ而シ其羊毛ハ即チ獸類ノ地上ニ生育シタルモノヨリ之ヲ得ル所ナレバナリ。

但シ以上數者ヲシテ斯ク諸人ノ用ニ供セシムルニハ必ス人ノ其力役ヲ夫レク用ユルニ非ザレバ則チ不可ナリ。アダムスミス氏ハ凡ソ人ノ既ニ從事シタル力役ヲ以テ「プロダクション」即チ物ヲ生ズルコトノ中ニ結合セリ然レモ力役ト物品トノミ

ニテハ固ヨリ以テ富ヲ生ズルニ充分ナラス必ス應サニ此外ニ一物件無カルベカラス蓋シテ所謂「カポタル」即チ資本是レナリ而シテ「カポタル」亦同シク「プロダクション」ノ中ニ結合セザルヲ得ズ。請フ實際ノ類例ニ就テ之ヲ明カサシ茲ニ人アリ何

等物品ヲ賣ルヤ一ハ則チ其素質ノ物品（即チ凡百物品ノ天然ノ儘ナル性質ヲ備ヘ未タ人工等ヲ經ガレテ就テ之ヲ言フ即チ木石其他ノ類是ナリ）二ハ則チ其人力役ノ價直三ハ則チ其資本（即チ此人ノ該物品ヲ生ズルニ付キ使用シタルモノ）ヲ賣ルト謂テ可ナリ故ニ其人然ルニ代價此三者ニ於ケル費用ヲ掩償スルニ足ルモノヲ獲ルニ非ザレバ則チ其人之レガ為

メニ其損失ヲ召クコト知バキノミ今試ミニ此等ヲ日本ニ驗スルニ譬ヘバ日本ノ

職人タルモノ毛ノ織物ヲ製スルガ為（海外）羊毛ヲ買入レ且ツ其資本ト力

役トヲ使用シ以テ之ヲ製出センカ此際右職人ハ必ス其損失ヲ取ルベシ是レ他無シ國々ニ因テ其產物ニ異同美惡ノ差アルハ到底誣エズ。然レノ事

理ナレバナリ（即チ本邦ノ如キ其羊毛ニ乏シキコト如此ナレバ則チ寧ろ歐洲諸國ニテ之ヲ製作スル便且ツ利アルニ如カナルノ意ナリ）今夫レ土地ハ恰モ凡百物產ノ儲庫トモ謂フベキモノナレバ予今人間交際

上ニ於ケル題件ヲ講論スベシ即チ誰人カ此土地ヨリ生ズル物產ヲ所有スルノ

權利アリヤ否ヤノ問題是レナリ此問題ハ所謂「プロムブレム」（算術上ノ成語ニシテ即チ問題ノ遂ニ解釋スベキモノ）一ニシテ此問題ノ土地ニ於ケルモノハ如何様ニ解釋決定シタルカヲ驗スレバ大畧左ノ如シ。○最初ノ一人種土地ノ未タ所有ニ歸セザルモノヲ見出シタルト并ニ自餘ノ人民右人種ノ所有ニ歸シタル土地ヲ分有タルノ二事アリ第一項ノ場合ニ於テハ其土地ノ所有タルヤ充分法律上ニ適當セル所有權理ト謂フベキコト疑フ容レザルベシ蓋シ其事タルヤ或ル國土ニ流民ノ居住無キモノ之ヲ見出し其人并家族ノ開墾耕作ニ堪ヘタル丈ケテ所有スルノ事ニ

シテ此有様ニテ所有シタル土地ヲ名ケテ「フォレスト、オックス、パント」即チ最初ニ所有ト云フ是レ固ヨリ予ノ臆測ニ非ス此事現ニ亞米利加洲ニ行ハレ該地ノ植民ハ隨ニ其土地ヲ有スルヲ得且ツ之レガ爲ノ僅々ノ金額ヲ其政府ニ納ハルアルノミ是レ他無シ一洲人民ヲ擧ケ之ヲ土地ノ幅員ニ比スレバ甚タ稀少ナルヲ免レザレバナリ如此キノ有様ハ原ト自然ノ理勢ニシテ今日ノヨーロッパ又ハ類似地方ノ既已ニ所有從事シタル箇所ニハ曾テ無キヲナレ其其他凡ソ至遠隔絶ノ地方ハ大抵皆然ラザルハ無シ○凡ソ人一旦其土地ヲ占有スルニ及ンデマ其力役ヲ使用シ以テ之レガ改良ニ從事スルナリ其力役ハ勿論カアロタルト相結合セルモノニシテ然後其土地ノ價直ヲ引揚ゲルナリ凡ソ開化地方ニ在ル土地ノ價直ハ通例二者ニ因テ引揚ゲルトナレリ即チ農業ニ於ケル諸方法ノ進歩并其土地自個ニ進善ニ赴キタルモノ是レナリ故ニ佛國ノ如キハ其土地ノ價直自カラ引揚ゲテ殆ンド舊時ノ一倍以上ニ至レリ而シテ此價直ハ其人民ノ之ヲ讓與賣却スルモ勝手タルモノトセリ

何者彼等ノ其土地ヲ獲タル固ヨリ法律ノ取ル所ナレバナリ而シテ是等ノ類ヲ讓與セラレタルモノモ亦同シク法律上ノ所有タルヲ失ハザルハ復タ事理ノ隨テ存在スル所タルヲ知ルベシ然レモ或ル人民ニ於テハ曾テ土地ヲ以テ其所有ト為サザリシモノアリ畢竟此人自カラ其去就ヲ選フヲ得ルガ故ニ職人又ハ商估ト成リ因テ以テ其生ヲ保タンコトヲ欲スモノナリ凡ソ土地ノ將主ハ何レノ國ニ在リモ其所有ハ自カラ區域アルトナレリ而シテ是等ノ權利ヲ有スルモノヲ名ケテ「プロプラエトル」即チ所有權ト云ヒ又或ハ之ヲカピタリスト即チ資本トモ云フベシ但シ茲ニ所謂カピタリストノ意味ハ土地ヲ含ミ獨リ貨幣ノ如キモノヲ指サレバナリ往時自餘諸國ニ種ノ學派所謂「コムニニスト」又ハソシヤリストナルモノアリ此學者ノ主張セル説ニ云ク凡ソ土地ヲ所有スル人ハ自餘諸人ノ土地ヲ所有セザルモノ、權利ヲ妨害スルモノナリト然シテガ此學者ハ元來意ヲ所要ナル事理ニ注カス且ツ之ヲ論破スルニ於テ何ノ難キカ之レ有ラシ是レ原ト學術上ニ於ケル尤モ緊

大 義 省

要ナル成績ノ一ニシテ斯ル異説ヲ打破ルニ更ニ勢力ヲ用ヒシテ専ラ議論
ヲ以テシ因テ以テ其成績ヲ見タルモノナリ何ゾマ夫レ苟モ土地ノ「プロパチ」
物ノ義即チ所有タルベキ固ヨリ法律ノ取ル所タルヲ猶オ自餘物品ニ於ケルト同一ナル所
以ノ事理ヲ證明スルハ則チ前段ノ論題自カラ互離氷散スルヲ固ヨリ
言フヲ待タスシテ毫モ困難ノ患無キヲ知ルベキノミ○但シ此論題ニ於
ケル述事ノ景況ヲ證明スル以前ニ於テ予先ツ所謂「プロパチ」ノ因テ
起ル事由顛末ヲ説明セザルベカラス抑ク土地ノ所有タルマ富ヲ生スルニ尤
モ重立ツタル基礎トナルベキモノ一タルハ古今歷代ノ同フスル所ナリ夫レ如
以テバ則チ予豈ニ其原由ヲ尋繹セザルベキヤ太古ノ世ニ在テ「ノト」
テイハウ又ノ人種アリ居所常無ク専ラ秋成ノ時ヲ逐ヒ其地ニ止マルニ非
ガレバ則チ土地ノ一時新作スベキ所ニ就テ遷移セリ是時ニ當テヤ土地
ハ猶未タ真ノ「カア」ビタルニ非ス當時唯之レニ從事スル丈ケノカ役并僅
々ノ農具及ヒ少小ノ牛羊アリ是等ノ物件以テ彼等ノ「カア」ビタルヲ

構成スルノミ當今確定スル所ニテハ歐洲各地ノ人種ハ都テ亞細亞
ノ中心地方ヨリ遷移シ来ルモノニシテ是レ其「インド」ヨ「ロ」ビ「マン」
人ト云々印各種ヲ得ル所以ナリト而メ此人種ノ歐洲へ入込ムニ其々漸ヲ
以テシ遂ニ此人種ノミ所々ニ散布シテ土地ノ未タ從事セザリシモノヲ擷
取セリト云フニ至レリ此有様ニ因テ着手セシ以前猶オ多少ノ年代ヲ
經過シタル六固ヨリ言フヲ待タス一旦是等人民ノ所有ニ歸シタル以後ト雖
氏若干ノ年月ノ以テ其資本ヲ多少ハ失セシ一亦知ルベキノミ家ノ譬
フルニ其父其子ニ遺スニ土地ト資本ト以テシ一子ハ土地今一子ハ資本
ヲ得タルニ後日資本ヲ得タルモノ之ヲ亡失シタルニ因テ更ニ土地ヲ請求シ
以テ今一子ノ即チ土地ヲ得タルモノノ權理ヲ干ス一子ヲ得ザルベシ因是觀
之人民ノ土地マ資本ニ於ケル其之ヲ得又ハ之ヲ失フハ各々事物ノ然ラ
シムル所復タ夫レ之ヲ何トカ謂ハシヤ
若夫レ戰伐其他ヲ以テ土地ヲ所有シタルノ事ニ至テハ其事全ク武將

大 史 留

ノ其属隷ニ分ツニ土地ヲ以テタルノ拳ニ始マリ而メ此事ヤ充分法律ニ
適當セルモノト謂フベカラス且ツ此拳ハ則チ實ニ歐洲並日本ニモ行ナ
ハレタル所謂「フエーダル、プロプアチー」封建時代ノ所
有物ト云フ如シ原始ナリ蓋シ武將ノ
其属隷ニ分ツニ土地ヲ以テシタル所以ノ制ハ忽チ極緊要ナル一種
ノ事矣ヲ造成セリ是レ即チ奴隷ノ事ニシテ其事ハ従前ノ所有
者忽チ愛シテ奴隷ト成リ而メ是等ノ人ノ土地ヲ耕作スルニ莫ノ所
有者ニテ在リシハヨリハ利益虧ナク且ツ不注意ナルトナレリ蓋
シ此制ノ行ハルニ及ビテマ凡ソ土地ノ所有者ニシテ軍事ニ服役セサル
モノハ都テ武將ノ保護ヲ仰クガ故ニ其代リニ其土地ヨリ生スル物品
ノ幾許 即チ年又ハ其土地ヲ所有スル權理ノ若干部分ヲ分與シ
以テ之レガ保護ヲ受クルモノナリ此有様ニテ土地ヲ所有シタルモノハ
一切其土地ノ改良進善ヲ事トスルコト有ル無シ是レ他無シ畢竟積
立テタル資本彼等ノ手ニ在ル無キヲ以テナリ故ニ此制ノ行ハル時代

ニ當テ窮乏飢饉ノ世愛ヲ閱ニスルコト多少之レ有リテ此愛故ニ常
ニ資本ノ欠乏並農業ニ於ケル良法ノ稀ナリ及ビ當時ノ高賣甚
々微々タルニ因テ起ル所ナリ蓋シ一ノ村落ハ甚々空乏貧困ノ色ア
レ氏其隣ノ地方ハ常ニ剩餘アリテ充足セルヲ見ルコト往々之レ有リ
而メ「フエーダル、ロード」封建制ノ貴族ト云フ義ニシテ
即チ當時ノ國君侯伯等ヲ指スニ於テハ動モスバ自由ニ
高賣スルコトヲ以テ各自ノ便利ヲ損害スルモノト誤認シ之ヲ妨碍スルモ
ノ又往々之レ有リ但シ當時農業ノ事ハ前段ノ次第ニテ其繁盛
ヲ失フト難職業ハ之レニ及ビテ稍其自由ヲ得常ニ閑進止マザルノ勢
アリ隨テ所謂「ウエールス」即チ富ヲ増積シ他日時機ニ際會シ遂
ニ封建制ヲ打破スルモノハ實ニ此富ノ致ス所ト謂ハル無キヲ得ニマ畢
竟歐洲ノ所謂「ミッドル、ウエールス」中等人民ノ等輩ト云フノ義ニシテ即チ貴族
ニ非ス又最下人民ニ非スニテ別ニ一種人民ノ等輩ヲ指
スナルモノハ原ト諸職ヲ業トスルモノ並高估ノ輩ニ出デ而メ前段封建
制ヲ打破スルモノハ實ニ是等ノ人民ニ在レバナリ始メ是等ノ人民各々

大 一 貴

其職業ヲ勉メ隨テ其富ヲ致シ因テ以テ前段ノ功績ヲ羨スルノ際ニ
 當テヤ夫ノ一層高貴ナル族人即チ封建制ハ同時ニ其権力威勢ヲ
ノ貴族ヲ指ス失フニ至レリ是レ他無シ軍陳事少シニシテ是等族人戰伐ニ臨ミ身親
 カラ殊別スル所ノ機會無ケレバナリ而シテ其結果ハ遂ニ佛國ノレヴオリ
 一シヨシ威カヲ以テ國ヲ改革スルノ事ニシテ譯者ニ至テ之ヲ見自餘ノ諸國モ亦大
ニ至テ之ヲ見自餘ノ諸國モ亦大抵同一軌ニ出テザルハ無シ但シ前段レヴオリシヨシノ佛國ニ起ルニ當
 テヤ國中ノ農民都テ土地ノ所有者ト公稱セラレ且ツ其是迄貴族
 ニ拂ヒ来リタル年貢ハ忽チ變シテ政府ニ納ムルノ租税ト成ルニ至レリ是
 レ則チ土地ヲ所有スル後前ノ故態ニ復歸セルノ事ニシテ此事實ニ
 所謂「フリー・プロプラエトル」自由ノ權理アル所有者ノ謂ニシテ封建制ノ奴隷ト全ク
相及シ文明諸邦ノ土地ヲ所有スルモノ概チ此稱ヲ下スベカラ
 無シノ制ヲ創起シ是等ノ鞏固ヨリ法律ニ適當セル所有ニシテ且ツ
 其土地ヲ授受賣買スルモ隨意ナルモノトシ而シテ凡ソ土地ヲ所有スルニ如ク
 キノ體裁ハ生財ノ道即チ上文ノ「自由」ニ於テ之ヲ見自餘ノ諸國モ亦大ニ於テ之ヲ見自餘ノ諸國モ亦大
 得タリト思考セラレタリ